

西南女学院大学の三つの方針について（2020年度入学生用）

本学では、建学の精神である「感恩奉仕」を基本とし、教育上の目的を踏まえた「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」の三つの方針を策定し、公表しています。

これは、育成すべき人材像を明確化した上で、それを実現するための適切な教育課程を編成し、体系的・組織的な教育活動を行うとともに、本学の教育を受けるにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜を実施することにより、その使命をよりよく果たすためです。

大学

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

本学の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 豊かな人間性と社会を捉える総合的視点と知識を身につけている。
- 1-2) 専攻する学問分野における基礎的知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 専攻する学問分野において、的確な考察および判断ができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 地域社会における課題を発見し、他者との協働により課題解決を図る意欲がある。

DP4【態度】

- 4-1) 自己研鑽し、社会に貢献しようとする姿勢がある。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 専攻する学問分野における技術を身につけ、社会で活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

本学は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 総合人間科学では、専攻する学問分野の違いを越えて学修する上での根本となる総合的視点と豊かな人間性を養うための科目を配置する。
2. 初年次段階において、大学で学ぶための基盤となる科目を配置する。
3. 専攻する学問分野においては、初年次から学年進行に合わせて段階的に、知識・技術および論理的思考が修得できるよう専門教育科目を体系的に配置する。
4. 地域社会における課題について、専攻する学問分野に関する知識・技術を活かし取り組んでいくための地域創生科目を配置する。
5. 学修成果を社会に活かすためのキャリア形成支援科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. 人と社会に関心をもち、その発展に貢献する意欲のある人。
【関心・意欲】

2. 基礎学力を備え、目的に向かって努力する人。

【知識・理解】【態度】

3. 協調性や他の人々を思いやる心をもつ人。

【技能・表現】

保健福祉学部

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

保健福祉学部の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、各学科において定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

1-1) 看護学、福祉学または栄養学の各専門領域における基礎的知識を修得している。

DP2【思考・判断】

2-1) 看護学、福祉学または栄養学の各領域において的確な考察および判断ができる。

DP3【関心・意欲】

3-1) 保健・福祉の実践者として課題を発見し、関連領域との協働により現実に即した解決を図る意欲がある。

DP4【態度】

4-1) 保健・福祉の理想を見出し、専門家として自己研鑽する力をもつ。

DP5【技能・表現】

5-1) 看護学、福祉学または栄養学における基本的かつ確実な技能と、関連領域と意見交換ができる的確な表現力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

保健福祉学部は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 総合的な人間理解と倫理観、理論と技術に基づく実践力、多職種協働、系統的なキャリア形成という視点を踏まえた科目構成を行う。
2. 専門職者としての実践力と協働力が備わった学士として成長するために、看護学、福祉学または栄養学領域における多様かつ高度な体系的専門教育としての科目構成を行う。
3. 学科を越えた学際的交流・共同による教育が行えるよう配慮する。

入学者の受け入れに関する方針（アドミッションポリシー）

保健福祉学部は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. 人間の健康や生活の向上に関心をもち、人々を支える意欲のある人。
【関心・意欲】
2. 基礎学力を備え、自ら学び続ける努力をする人。
【知識・理解】【態度】
3. 地域や社会で活動できるための基本的な協調性や人を思いやる心をもつ人。
【技能・表現】

看護学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

看護学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与します。

DP 1【知識・理解】

- 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
- 1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

DP 2【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。

DP 3【関心・意欲】

- 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲をもっている。
- 3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲をもっている。

DP 4【態度】

- 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
- 4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。

DP 5【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。
- 5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

看護学科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

【総合人間科学（大学共通）】

1. 総合人間科学は、全学共通科目と学部共通科目で構成する。
2. 全学共通科目は、「キリスト教教育」、「初年次教育」および「女性と健康」で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である『感恩奉仕』を展開させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。
3. 学部共通科目は、「基礎教養」、「アカデミックスキル」、「地域創生」および「キャリア形成支援」で構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、全学的取組として、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、各学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

【専門教育科目】

1. 看護学科の教育課程は、看護実践者の育成を目的として、総合人間科学と専門教育の「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。

2. 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得および態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。
3. 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
4. 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
5. 「看護の発展」では、地域包括ケアおよび看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通して社会貢献する態度を育成する。
6. 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（看護）を取得できる。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

看護学科は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. 生命と健康を支えたいという意欲をもち、看護を学ぶために必要な基礎学力がある人。
【知識・理解】【関心・意欲】
2. 人に尊敬の念をもって接し、他者と協調して行動ができる人。
【態度】【技能・表現】
3. 看護の実践を通して、社会貢献をしたいと考えている人。
【関心・意欲】

福祉学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

福祉学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（福祉学）の学位を授与します。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
- 1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
- 2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心をもつ。
- 3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探求しようとする意欲がある。

DP 4 【態度】

- 4-1) 社会の一員としての自覚をもち、責任をもって行動できる。
- 4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
- 4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。

DP 5 【技能・表現】

- 5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
- 5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

福祉学科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

【総合人間科学（大学共通）】

1. 総合人間科学は、全学共通科目と学部共通科目で構成する。
2. 全学共通科目は、「キリスト教教育」、「初年次教育」および「女性と健康」で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である『感恩奉仕』を展開させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。
3. 学部共通科目は、「基礎教養」、「アカデミックスキル」、「地域創生」および「キャリア形成支援」で構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、全学的取組として、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、各学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

【専門教育科目】

1. 福祉学科は、福祉・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成する。
2. 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・養護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。
3. 福祉学科の教育課程は、総合人間科学と専門教育の「福祉基礎科目」、「福祉専門科目」、「精神保健福祉関係科目」、「福祉心理臨床関係科目」、「保健・医療関係科目」、「保育関係科目」、「専門研究科目」および教職に関する科目で構成する。
4. 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。
5. 「福祉専門科目」、「精神保健福祉関係科目」、「福祉心理臨床関係科目」、「保健・医療関係科目」、「保育関係科目」および教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
6. 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

福祉学科は、以下のような学生の入学を期待しています。

福祉・養護教諭コース

1. 人々の生について広く深く学ぶ意欲のある人。
【知識・理解】【関心・意欲】
2. 豊かな人間関係を築く努力ができる人。
【技能・表現】
3. 人々への支援を通して社会貢献をめざしている人。
【態度】

子ども家庭福祉コース

1. 人々の生について広く深く学ぶ意欲のある人。
【知識・理解】【関心・意欲】
2. 豊かな人間関係を築く努力ができる人。
【技能・表現】
3. 子どもと家庭の支援を通して社会貢献をめざしている人。
【態度】

栄養学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

栄養学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（栄養学）の学位を授与します。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
- 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識および技術を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心をもち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲をもっている。

DP 4 【態度】

- 4-1) 専門職業人としての職業倫理をもっている。
- 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。

DP 5 【技能・表現】

- 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

栄養学科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

【総合人間科学（大学共通）】

1. 総合人間科学は、全学共通科目と学部共通科目で構成する。
2. 全学共通科目は、「キリスト教教育」、「初年次教育」および「女性と健康」で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である『感恩奉仕』を展開させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。
3. 学部共通科目は、「基礎教養」、「アカデミックスキル」、「地域創生」および「キャリア形成支援」で構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、全学的取組として、地域の現実的な課題

を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、各学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

【専門教育科目】

1. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。(1年次、2年次)
2. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。(3年次)
3. 将来の進路に合わせた、より深い知識・技術を身につけるため、「食と健康分野」「実践栄養分野」「臨床栄養分野」の科目を修得する。さらに、卒業研究、実践活動、演習を通して、4年間の学びの集大成を行い、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養う。(4年次)
4. 栄養士・管理栄養士教育課程の卒業要件に加え、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状の取得に関する科目を設定する。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状が取得できる。

入学者の受け入れに関する方針（アドミッションポリシー）

栄養学科は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. 栄養と健康の問題に強い関心をもち、人々の健康に貢献したいと考えている人。
【関心・意欲】
2. 人とのコミュニケーションが円滑にとれ、協調性のある人。
【技能・表現】
3. 栄養の面から、教育やスポーツなどの分野でも活躍したいと考えている人。
【知識・理解】

人文学部

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

人文学部の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、各学科において定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士の学位を授与します。

DP1 【知識・理解】

1-1) 人文科学あるいは社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力を身につけている。

DP2 【思考・判断】

2-1) 人文科学あるいは社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断ができる。

DP3 【関心・意欲】

3-1) 人文科学あるいは社会科学の知識を社会における実践力へと高め、社会に貢献しようとする意欲がある。

DP4 【態度】

4-1) 文化や社会の担い手としての自覚をもち、自己研鑽して社会に貢献しようとする姿勢を有する。

DP5 【技能・表現】

5-1) 他者と協働し国内外で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

人文学部は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 総合的な人間と社会の理解、国際理解・地域理解、語学を含むコミュニケーション能力向上、自立し他者と協働できる女性としてのキャリア形成の各視点を踏まえた科目構成を行う。
2. 各科目は、英語学科および観光文化学科の専門的な知識や方法論を学修するために、科目群を示すことにより体系的に配置している。
3. 「演習・研究科目」は、学修段階に応じた知識や技能を統合させることにより、課題発見力、課題解決力、論理的思考力、グループワーク力およびプレゼンテーション力を養うために、全科目必修としている。
4. 科目での学修、ならびに、学生相互の交流、教員や地域の人々との積極的な交流を通して、コミュニケーション力を磨き、交渉力や課題解決力を培うことにより、国際社会や地域社会で貢献できる基礎的人間力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

人文学部は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. 日本の社会および国際社会に関心をもち、将来、社会で積極的に活動しようとしている人。
【関心・意欲】
2. 基礎学力を備え、向上心をもち、目的に向かって努力する人。
【知識・理解】【態度】
3. 他の人々を思いやる心をもち、協調性に富んでいる人。
【技能・表現】

英語学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

英語学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（人文学）の学位を授与します。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
- 1-2) 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけている。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
- 3-2) 国際社会や地域社会が抱える課題に関心をもち、課題解決のために自らの能力を高めようとする意欲を身につけている。

DP 4 【態度】

- 4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
- 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
- 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
- 5-2) 英語および日本語による情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

英語学科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

【総合人間科学（大学共通）】

1. 総合人間科学は、全学共通科目と学部共通科目で構成する。
2. 全学共通科目は、「キリスト教教育」、「初年次教育」および「女性と健康」で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である『感恩奉仕』を展開させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。
3. 学部共通科目は、「基礎教養」、「アカデミックスキル」、「地域創生」および「キャリア形成支援」で構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、全学的取組として、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、各学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

【専門教育科目】

1. 英語学科の教育課程は、総合人間科学と専門教育の「英語スキル科目」、「英語コミュニケーション科目」、「国際理解科目」、「キャリア形成科目」、「地域貢献・国際貢献科目」、「演習・研究科目」で構成する。
2. 「英語スキル科目」では、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎を育成する。
3. 「英語コミュニケーション科目」では、英語の4技能（聴く、話す、読む、書く）を向上させるため、Active Learningの手法を取り入れた授業で構成する。
4. 「国際理解科目」では、異文化理解を深め、英語・日本語などを通して、国際社会に関する知識と思考能力などを養う科目と、海外研修に関わる科目で構成する。
5. 「キャリア形成科目」では、国際経済やビジネス等についての知識を深める科目を組み込んでいる。また、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目では、所定の単位数を修得することで、高等学校教諭一種免許状（英語）、中学校教諭一種免許状（英語）の取得、日本語教員養成課程修了証が授与される。
6. 「地域貢献・国際貢献科目」では、地域、企業、国際の各分野でのインターンシップを実施するため、課題解決力やリーダーシップを育成する。
7. 「演習・研究科目」では、専門的な知識や研究方法および社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

英語学科は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. 英語力の向上に強い関心を持ち、自主的に学習する姿勢を身につけている人。

【知識・理解】

2. 英語力を活用して他国の人々と積極的に関わり、異文化理解を深め、自国の文化を発信する意欲のある人。

【関心・意欲】【技能・表現】

3. 世界の出来事に関心があり、かつ地域社会の活性化にも貢献する意欲のある人。

【関心・意欲】【態度】

観光文化学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

観光文化学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（人文学）の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

1-1) グローバル化、情報化が進む社会に対応する基礎的な知識を修得している。

1-2) ツーリズム産業界及び社会全般で役立つ英語および中国語を修得している。

1-3) 異文化についての知識と理解を修得している。

1-4) ツーリズムおよび地域社会に関わる専門的知識を修得している。

DP2【思考・判断】

2-1) 現代社会の実態と課題を学際的な視点でとらえることができる。

2-2) 現代社会の様々な課題について、課題解決に向けて判断し、提案できる。

DP3【関心・意欲】

3-1) 地域や国内外の課題への関心と貢献する意欲をもっている。

DP4【態度】

4-1) ホスピタリティのこころを身につけている。

4-2) 多様な価値観を共有し、協働することができる。

DP5【技能・表現】

5-1) キャリア形成に必要なコミュニケーション能力を身につけている。

5-2) ツーリズムおよび地域社会に関わる課題解決に向けての専門的スキルを身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

観光文化学科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

【総合人間科学（大学共通）】

1. 総合人間科学は、全学共通科目と学部共通科目で構成する。

2. 全学共通科目は、「キリスト教教育」、「初年次教育」および「女性と健康」で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である『感恩奉仕』を展開させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。

3. 学部共通科目は、「基礎教養」、「アカデミックスキル」、「地域創生」および「キャリア形成支援」で構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、全学的取組として、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、各学科のキャリア形成発展科目

との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

【専門教育科目】

1. 観光文化学科の教育課程は、専門的な知識・理解と思考力を育成するために、総合人間科学と専門教育の「観光に関する科目」、「マーケティング・経営・経済に関する科目」、「地域活性化に関する科目」、「外国語に関する能力育成科目」、「異文化交流に関する科目」、「キャリア教育科目」、「留学生対応科目」、「演習・研究科目」で構成する。
2. 「観光に関する科目」では、ホスピタリティを基盤とし、ツーリズムについて基礎から応用までの専門的な知識の修得と課題への対応能力を養う科目で構成する。
3. 「マーケティング・経営・経済に関する科目」には、地域、国内外のビジネスについて、幅広い理解や課題への対応能力を養う科目を配置する。
4. 「地域活性化に関する科目」では、地域振興に関わる知識を修得し、地域社会に貢献できる能力を育成する。
5. 「外国語に関する能力育成科目」では、英語および中国語でのコミュニケーション能力を向上させるため、基礎から応用へと段階的に修得できる科目で構成する。
6. 「異文化交流に関する科目」では、異文化や多様な価値観を理解する能力を育成する。
7. 「キャリア教育科目」では、将来の進路についての意識をもたせ、高めるための科目を配置する。
8. 「留学生対応科目」には、留学生専用として日本語の勉強を継続し、専門科目をよりよく理解できるようになるための日本語科目を配置する。
9. 「演習・研究科目」では、観光や地域活性化に関する演習を通して、課題解決能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

観光文化学科は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. ツーリズムまたは地域活性化の分野で活躍したい人。
【関心・意欲】【態度】
2. 基礎学力とコミュニケーション力があり、向上心・向学心がある人。
【知識・理解】【技能・表現】
3. 地域や社会に関心をもち、貢献しようという意欲がある人。
【関心・意欲】

助産別科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

助産別科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に修了証書を授与します。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
- 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
- 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
- 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。

DP4【態度】

4-1) 母子保健チームの一員として責任をもつ行動ができる。

DP5【技能・表現】

5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

助産別科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 助産別科の教育課程は、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で編成する。
2. 助産の理論領域は助産実践の基になる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」および助産実践力を育成する「実習」で構成する。
3. 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核にして、女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、これらについての課題に積極的に取り組む態度を育成する。
4. 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
5. 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
6. 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任をもつ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

助産別科は、以下のような学生の入学を期待しています。

1. 生命への尊厳と他者への思いやりのある人。
【関心・意欲】
2. 助産師を志す強い意志のある人。
【関心・意欲】
3. 助産の基礎を学ぶための看護の基礎学力と技術がある人。
【知識・理解】【技能・表現】
4. 責任をもって行動ができる人。
【態度】